

4. まとめ

- (1) 整備士不足と指摘している状況は、全体では約半数の 47.9%となっている。業態別ではディーラーは 63.2%で半数を超え、専兼業は 39.9%となり、ディーラーの整備士不足は高い状態にある。
- (2) 求人活動については、全体では 42.8%が行っている。業態別ではディーラーは 67.1%が活動を行っており、専兼業の 30.2%に比べて 36.9%と約 2 倍の差が生じており、実際にディーラーの活発な求人活動が裏付けられた。
- (3) 求人理由については、専兼業とディーラーでは企業規模の差が生じており、不定期または突発的な「退職者の後任」が理由であるのは専兼業の割合が高く 64.4%、従業員数が多いことにより毎年退職者が生じる「定期的な求人」については、ディーラーが 77.8%と高い割合で行っている。
- (4) 求人結果については、専兼業とディーラーで「予定通り採用できた」と「一部採用できたが不足である」を合計した割合は、ディーラーは 87.7%となり、専兼業の 51.8%より 35.9 ポイント高い。
また、「採用出来なかった」に注目すると、専兼業は 39.6%で、ディーラーの 8.9%の約 4.4 倍高くなっている。

以上